

授業科目名	生と死の倫理学	担当教員	広瀬 一隆
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年 第1クォーター		
講義内容	<p>私たちは「生命」について何を知っているのでしょうか？本講義の目的は、生まれ、老い、病み、死にゆく生命が、どのような問いを孕んでいるのかを考えることにあります。生殖医療や再生医療、さらにはワクチンまで、広大な領域にわたる生命倫理の諸問題を取り上げながら、なぜそれらが私たちにとって重要なのかを明らかにします。映画や小説、アニメといった作品も参照しながら、より深く問題の所在を見定めます。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学的人間学の基本的な考え方を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 私たちの日常生活や医療の現場に生じてくる生命倫理の諸問題について考え、対話・討論することができる。</li> <li>3. 生命に関する諸問題について自らの専門領域の観点から対話・考察し、実践に結びつけることができる。</li> <li>4. 自分自身が最も関心を寄せる「生と死」の問題について、医学的人間学の観点をふまえて自ら考察し、最終レポートにまとめることができる。</li> </ol>		
授業計画	<p>I 生命の尊厳</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 蔑ろにされた生命—生命倫理の歴史</li> <li>2 出生前診断と障害ある生—内なる優生思想</li> <li>3 遺伝子操作の葛藤—映画『ガタカ』の視点</li> <li>4 再生医療という「夢」—山中伸弥教授の作った iPS 細胞</li> <li>5 脳死と臓器移植—ドナーカードをめぐる問題</li> <li>6 尊厳ある最期とは—「自殺ツーリズム」を考える</li> <li>7 動物実験は許されるか—動物の権利と動物福祉</li> </ol> <p>II 「私たち」の命</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 公衆衛生をめぐる葛藤—HPV ワクチン（子宮頸がんワクチン）や新型コロナウイルスのパンデミックを例に</li> <li>2 インフォームド・コンセント—医師と患者の対話</li> <li>3 苦しみを聞き取る—ケアの倫理</li> </ol> <p>III 生命倫理を越えて</p> <p>「この私」の命を生きるために</p>		
事前・事後学習	<p>事前には、あらかじめ提示された論点について自分の意見を持っておく。また事後には、講義や対話・討論を通じてえられた示唆にもとづいて、自らの問題についてさらに考察を深め、自らの考えをまとめる。</p>		

テキスト	玉井真理子・大谷いづみ編『はじめて出会う 生命倫理』（有斐閣アルマ）
参考文献	森岡正博『生命学に何ができるか 脳死・フェミニズム・優生思想』（勁草書房）
成績評価の基準	出席や受講態度（15%）、中間レポート（35%）、期末試験ないし最終レポート（50%）によって総合評価します。
履修上の注意 履修要件	グループによる対話討論を積極的に導入します。文章の書き方についても適宜授業で扱い、添削などを行います。
実践的教育	
備考欄	定員を超過した場合、それまでの出席・課題の提出状況により選考します。